

 **Techno Medica**

**2025年3月期  
第2四半期決算説明会**

**2024年11月25日**

**代表取締役社長**

**實吉 政知**

- 1. 事業の概要**
- 2. 2025年3月期 第2四半期決算**
- 3. 2025年3月期業績見通し**
- 4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に関して**

# **Techno Medica**

## **1.事業の概要**

社名	株式会社テクノメディカ / Techno Medica Co. , Ltd
事業内容	臨床検査用分析装置、医療機器の研究開発、製造、販売、輸出及び、 これら装置で使用する消耗品の製造、販売
事業所	本社 研究開発センター、物流センター 支店 : 大阪、名古屋、福岡 営業所 : 札幌、仙台、北関東、甲信越、広島、松山 出張所 : 盛岡、金沢、岡山
海外販売拠点	台湾支店 (新北)
従業員数 (2024年9月末)	244 (71) 名、 派遣社員を含まず ( ) 内は、パート社員の人員を外数で記載

1987年9月  
神奈川県川崎市高津区にて創立

1988年  
全自動血液ガス分析装置の販売を開始

1991年  
自動採血管準備装置の販売を開始

1997年  
本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）

1998年  
本社第2研究所竣工⇒研究開発部門の充実

2004年  
ジャスダック証券取引所へ店頭登録

2005年  
本社第3研究所竣工⇒研究開発部門+物流の充実

2008年  
東京証券取引所市場第一部に指定

2009年  
本社第4ビル竣工⇒生産業務施設の充実

2012年  
ヘルスケアセンターを開設  
⇒ヘルスケア部門の研究開発強化

2019年  
テクノメディカ台湾支店開所  
横浜市緑区に物流倉庫を開設

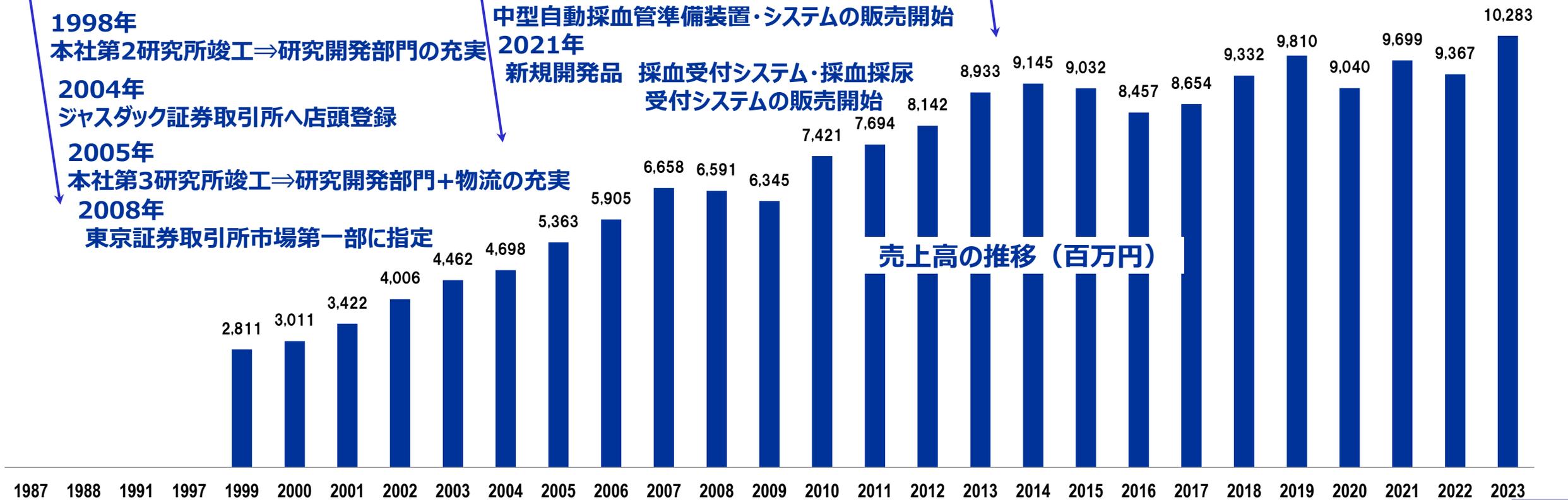
2020年  
中型自動採血管準備装置・システムの販売開始

2021年  
新規開発品 採血受付システム・採血採尿  
受付システムの販売開始

2022年  
4月 東証「プライム市場」へ移行  
8月 血液ガス分析装置 新製品GASTAT-Proの販売開始

2023年  
1月 研究開発センターへ研究開発機能を全面移管  
10月 東証スタンダード市場へ移行

2024年  
3月 クラウド採血待合システムを販売開始

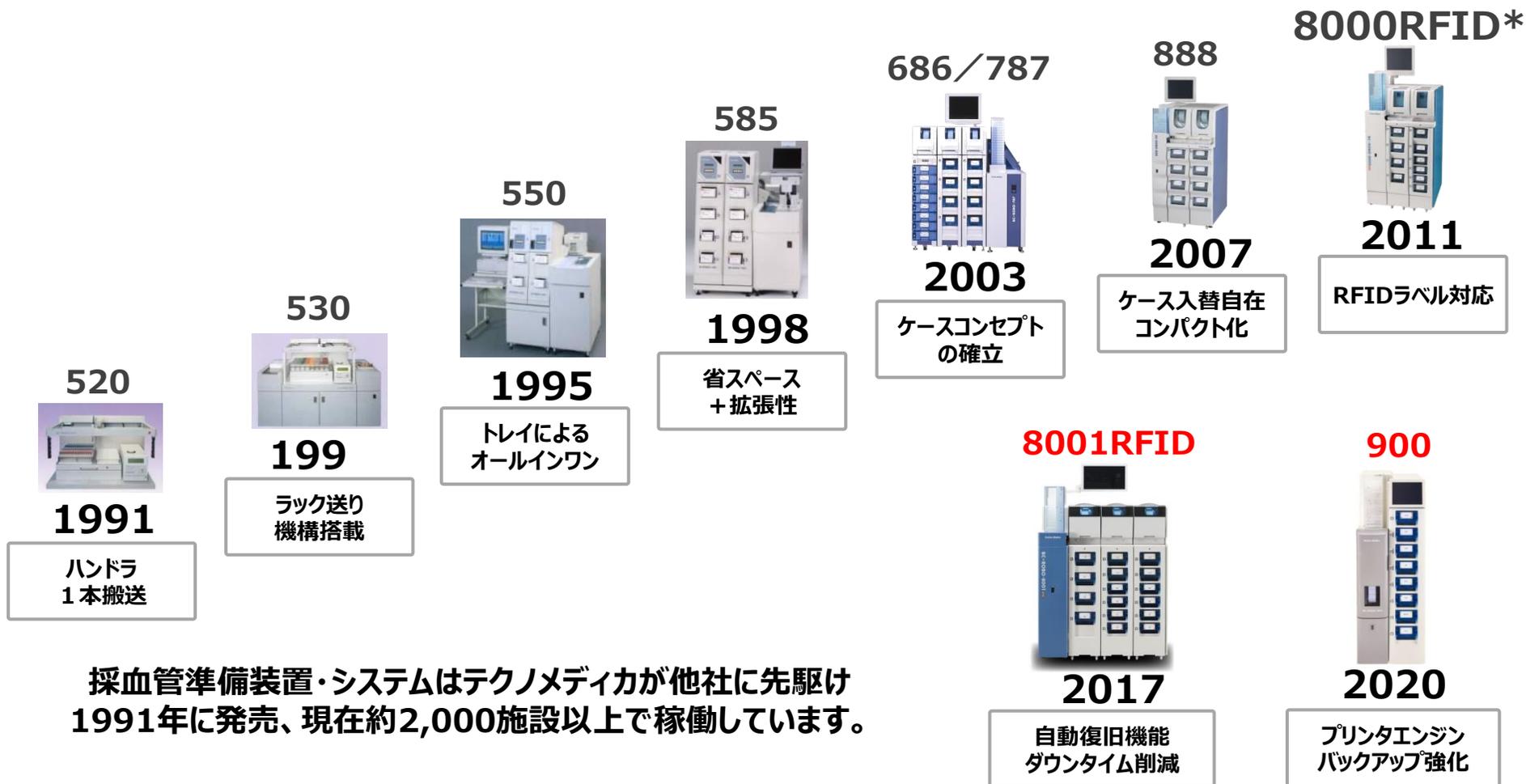


● 品目別に見た主要製品

製品名				
採血管準備装置 ・システム	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS</p> <p>アンテナ ボックス 採血管 スタンド</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID</p>
検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>コンパクト血液ガス分析器 GASTAT-pro</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p>&lt;その他&gt; 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー 測定システム等</p>
消耗品等	 <p>センサーカード</p>	 <p>ラベル</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハルンカップ</p> <p>&lt;その他&gt; 採血管準備装置および 検体検査装置の保守等</p>

CONFIDENTIAL

● 採血管準備装置・システムの歴史



\*RFID(Radio Frequency IDentification) … ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム

<採血管準備装置・システム>

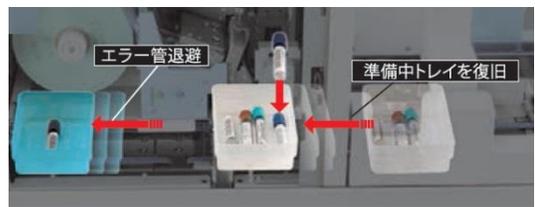
● 主力製品 BC・ROBO-8001 RFID について

自動採血管準備装置  
BC・ROBO  
8001  
RFID

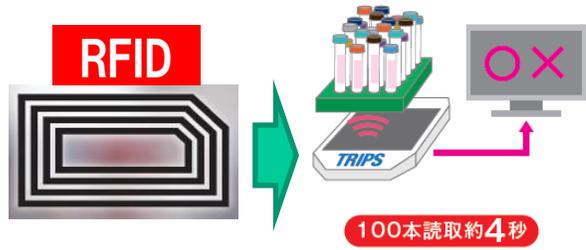
主  
な  
特  
長



IoTサポート  
⇒ 自動起動機能 等



自動復旧  
⇒ 発行動作の停止を回避



RFID連携強化  
⇒ 検体トレーサビリティの強化



自動学習  
⇒ メンテナンス時期のアラート 等



<採血管準備装置・システム>

● 採血業務支援システム Assist More



採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータル的にサポートするオプション

▶ 採血レコーダーシステム (オプション)



採血中の動画と音声を同時記録

- 採血技術向上
- 採血トラブル時の検証データとして活用
- 採血部位・採血手順記録の精度向上

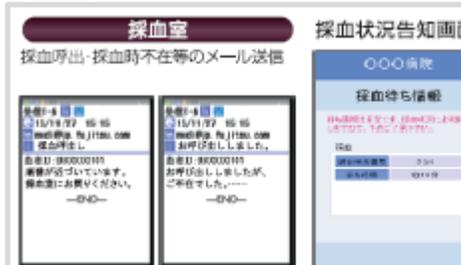
📊 アドミニストレータ (オプション)



採血カルテデータを分析・活用

- 患者様固有の採血傾向を患者サービス向上へ活用
- 日々の採血パフォーマンスを集計
- 採血室の管理業務を細かくサポート

✉ Webメール採血呼出通知 (オプション)



患者様の携帯電話・スマホへ直接採血呼出しメールを送信

- 待合に不在の患者様を呼出可能
- Web画面で採血室状況の確認が可能

<検体検査装置>

● 全自動pH／血液ガス分析装置

**GASTAT-700 Model**

- データの信頼性を追求
- 長寿命設計で、低ランニングコスト
- IoTによりトラブルの予兆を検知



● コンパクト血液ガス分析器

**GASTAT-Pro**

- コンパクト、高機能 新型装置
- 新開発センサカード
- 操作性をアップグレード



## <JACLaS EXPO 2024 へ新製品を出展>

(臨床検査機器・試薬・システム展示会：10月4～6日パシフィコ横浜で開催)

### 尿中エクオール検査キット

## 「EQUOTEST/エクオテスト」

ご自宅などその場で簡単・10分でエクオール産性能を  
調べられる検査キットが「エクオテスト」



### < 展開先 >

- ECモールを使用した一般消費者へ直接提供
- 病院・クリニック様でご提供
- 女性の健康問題に取り組む企業様で福利厚生の一環として



## **2. 2025年3月期 第2四半期決算**

売上高は前年同期比+60百万円も、営業利益は、販管費の増加で前年同期比△219百万円。

よって、当期中間純利益は、前年同期比△155百万円の221百万円にとどまった。

(単位：百万円)

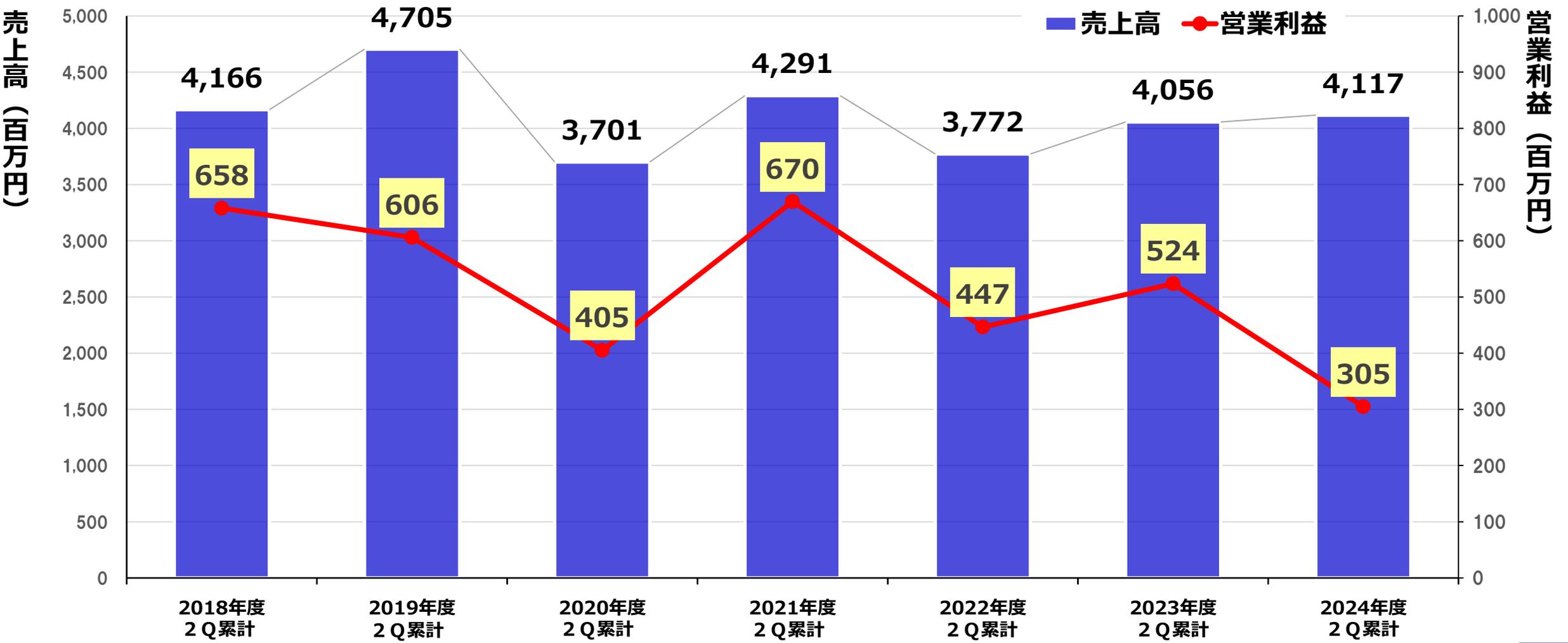
	2023年度 2Q累計	2024年度 2Q累計	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	4,056	4,116	60	1.5%
売上原価	1,995	2,038	43	2.2%
売上総利益	2,061	2,078	16	0.8%
粗利率	50.8%	50.5%	△0.3pt	
販管費	1,537	1,774	236	15.4%
営業利益	523	304	△219	△41.8%
営業利益率	12.9%	7.4%	△5.5pt	
経常利益	533	298	△236	△44.0%
中間純利益	376	221	△155	△41.1%

<p>売上高 増減要因</p>	<p><b>採血管準備装置・システム (△48百万円)</b> ⇒国内) 大規模施設向けの機器・システムの販売案件の一部が、23年度に前倒しになった影響で、前年同月比△12.0%の減少 海外) 主に東南アジア市場における販売案件が堅調を維持し、+96.5%の増加</p> <p><b>検体検査装置 (+23百万円)</b> ⇒国内) 主に血液ガス分析装置の売上が、卓上型・ハンディ型いずれも前年同期を下回ったことにより、△15.3%の減少 海外) 中東、アジア地域に向けた血液ガス分析装置の販売が伸長したこと等により、+51.8%の増加</p> <p><b>消耗品等 (+85百万円)</b> ⇒国内・海外市場ともに安定した需要が続き、国内は+2.3%の増加、海外も+9.3%の増加</p>
---------------------	---

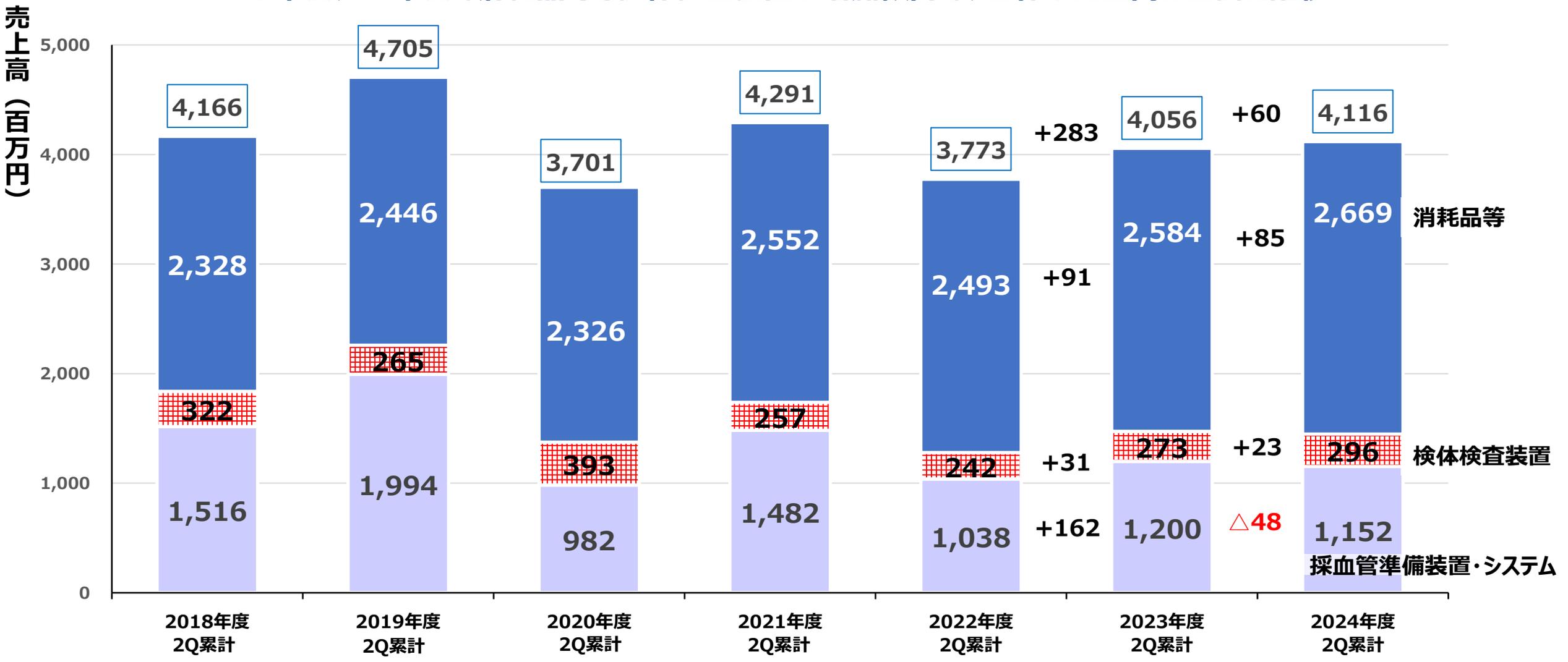
<p>販管費 増減要因</p>	<p>2億3千6百万円の費用増加の主な要因は、研究開発費、人件費の増加によるもの。 このうち、研究開発費については、委託開発費の期ズレ（前期は下期、当期は上期に発生）により、1億4千万円の増加。 下期については、研究開発費が前年比減少し、販管費全体としては、前年並みの見込。</p>
---------------------	---

# 第2四半期 売上高・営業利益推移 Techno Medica

売上高は、23、24年度と増加傾向だが、今期24年度2Q累計の営業利益は、研究開発費、人件費の増加で、3億円台に止まる



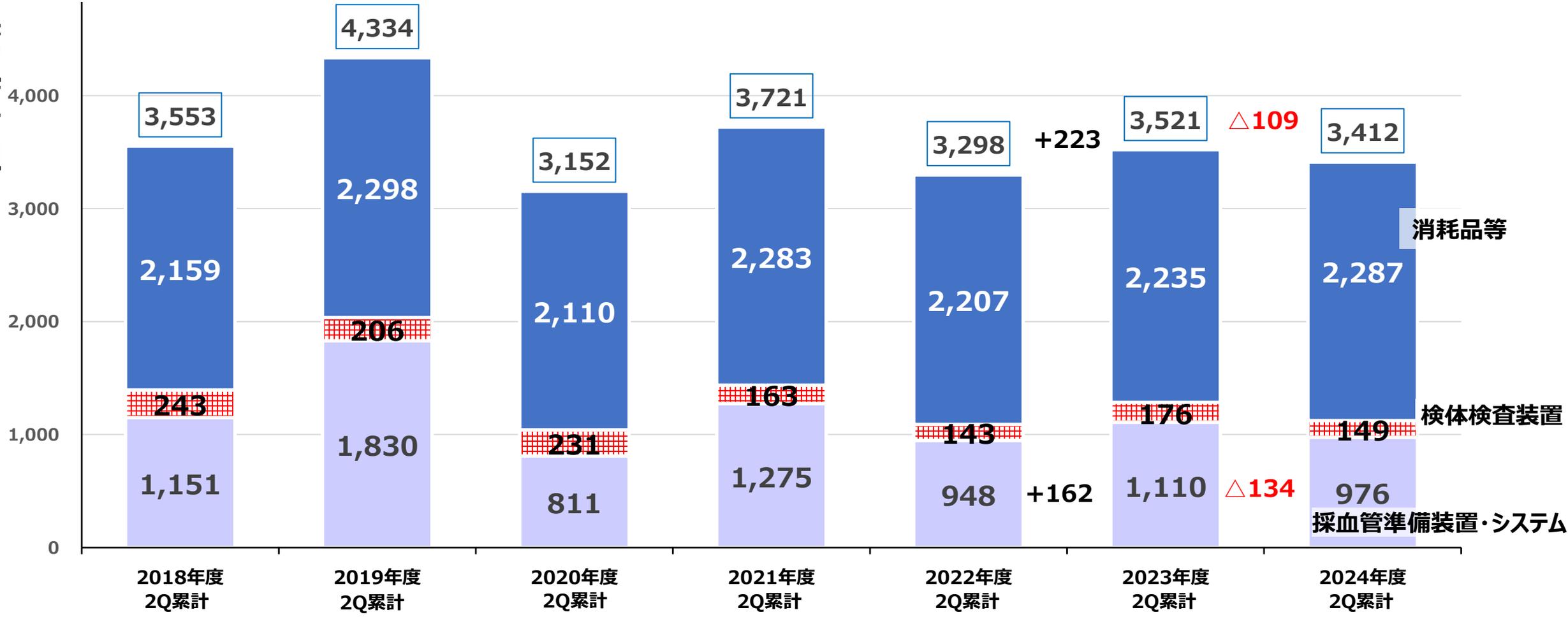
23年度、24年度で消耗品等と検体検査装置が増加傾向で、全体の売上高は堅調に推移



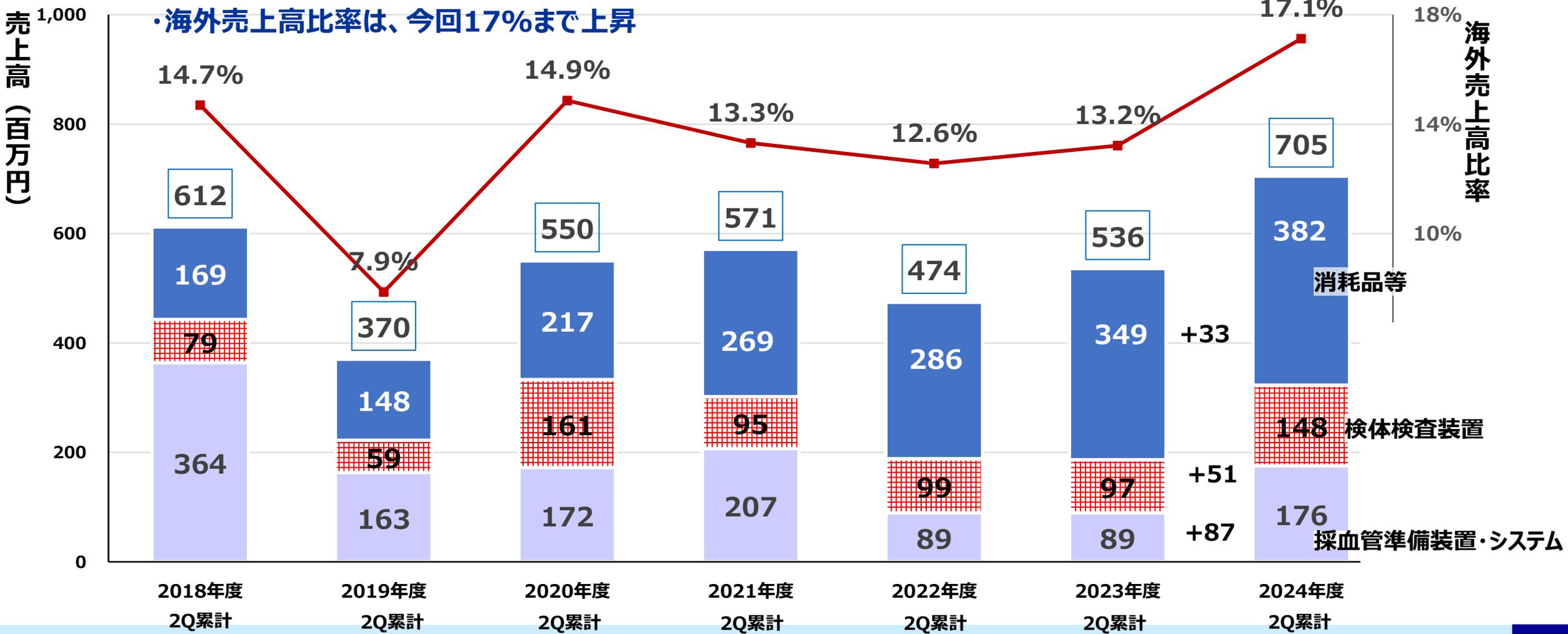
第2四半期累計 **国内** 品目別売上推移 **TMC Techno Medica**

- ・採血管準備装置・システムは、24年度の販売案件が、23年度へ一部前倒しになった影響で、23年度で増加するも24年度は減少
- ・全体の売上高も同様に推移
- ・消耗品等は、22年度に採血管の売上がなくなったため(仕入先供給停止)一旦減少したが、23、24年度は堅調に推移。

売上高 (百万円)



- ・24年度2Q累計の海外売上高は、各製品とも対前年で増加し、7億円超。
- ・採血管準備装置・システムは、22、23年度の低迷から回復し、検体検査装置と共に大幅に増加。
- ・消耗品等は、稼働装置数の増加等により、着実に伸長。
- ・海外売上高比率は、今回17%まで上昇



## 第2四半期 貸借対照表

- 24年9月末)・資産合計は165億円で、前年度末比△9.4億円の減少 (売上債権△21.4億円、現預金+9.5億円、他)  
 ・負債合計は 28.8億円で、同△7.3億円減少 (買入債務△5億円、他)  
 ・純資産合計は136億円で、同△2.1億円の減少 (純利益+2.2億円、配当△4.7億円、他)

(単位：百万円)

	24年3月末	24年9月末	増減		24年3月末	24年9月末	増減
流動資産	15,081	14,223	△859	流動負債	3,359	2,616	△744
現預金	8,586	9,535	+948	買入債務	1,415	912	△504
売上債権	4,297	2,157	△2,140	その他	1,944	1,704	△240
棚卸資産	2,155	2,430	+275	固定負債	256	268	+12
その他	43	101	+59	負債合計	3,615	2,884	△731
固定資産	2,352	2,268	△85	資本金	1,070	1,070	
有形固定資産	1,449	1,413	△35	資本剰余金	1,003	996	△7
無形固定資産	71	62	△9	利益剰余金	15,731	15,482	△248
投資その他	832	792	△40	自己株式	△3,985	△3,942	+43
資産合計	17,433	16,490	△943	純資産合計	13,818	13,606	△212
				負債純資産合計	17,433	16,490	△943

今期24年度2Q累計について、現預金等は9.5億円増加し、期末残高は95.4億円

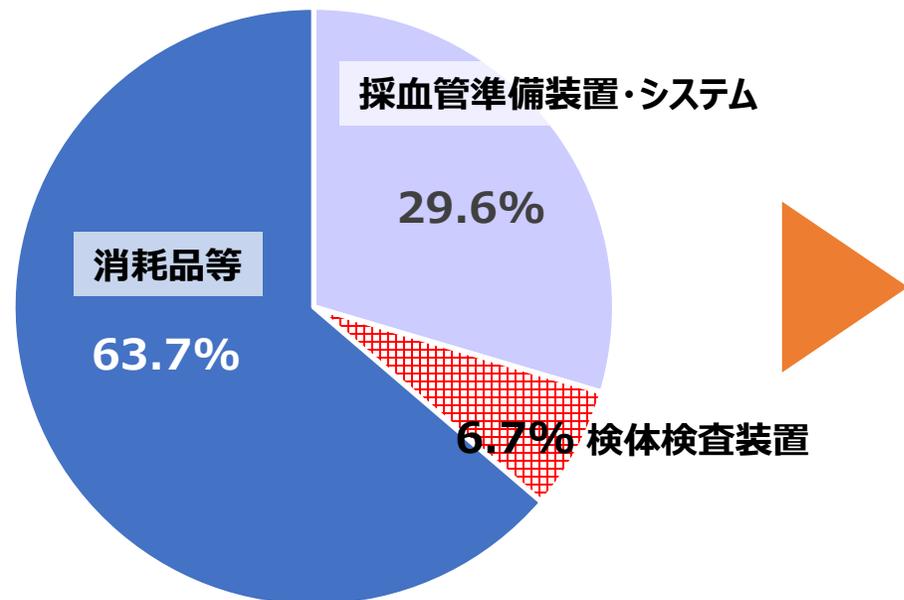
営業活動によるキャッシュフローは、売上債権等の運転資金の減少により、前年同期に比べ9.5億円増の14.3億円

財務活動によるキャッシュフローは、今期自己株式の取得はなく、前年同期に比べ7.6億円増の△4.7億円

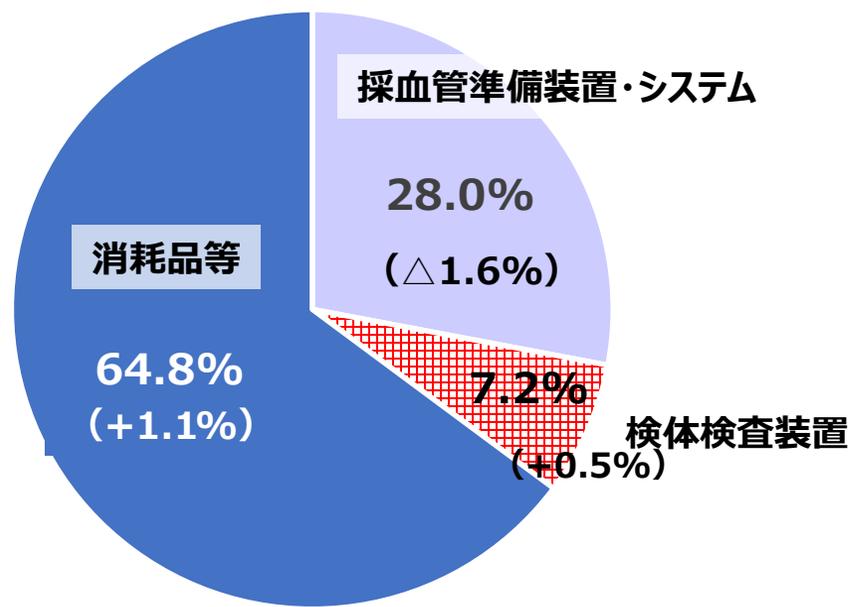
(単位：百万円)

摘 要	23年度 2 Q累計	24年度 2 Q累計	増 減
営業活動によるキャッシュフロー (A)	474	1,427	953
投資活動によるキャッシュフロー (B)	△75	△9	66
フリーキャッシュフロー (A+B)	399	1,418	1,019
財務活動によるキャッシュフロー			
自己株式の取得	△724	0	724
配当金の支払額	△508	△470	38
小計 (C)	△1,232	△470	763
現預金等増減 (A+B+C)	△833	948	1,781
現預金等の期首残高	11,750	8,586	△3,164
現預金等の中間期末残高	10,917	9,535	△1,382

23年2Q累計 売上構成



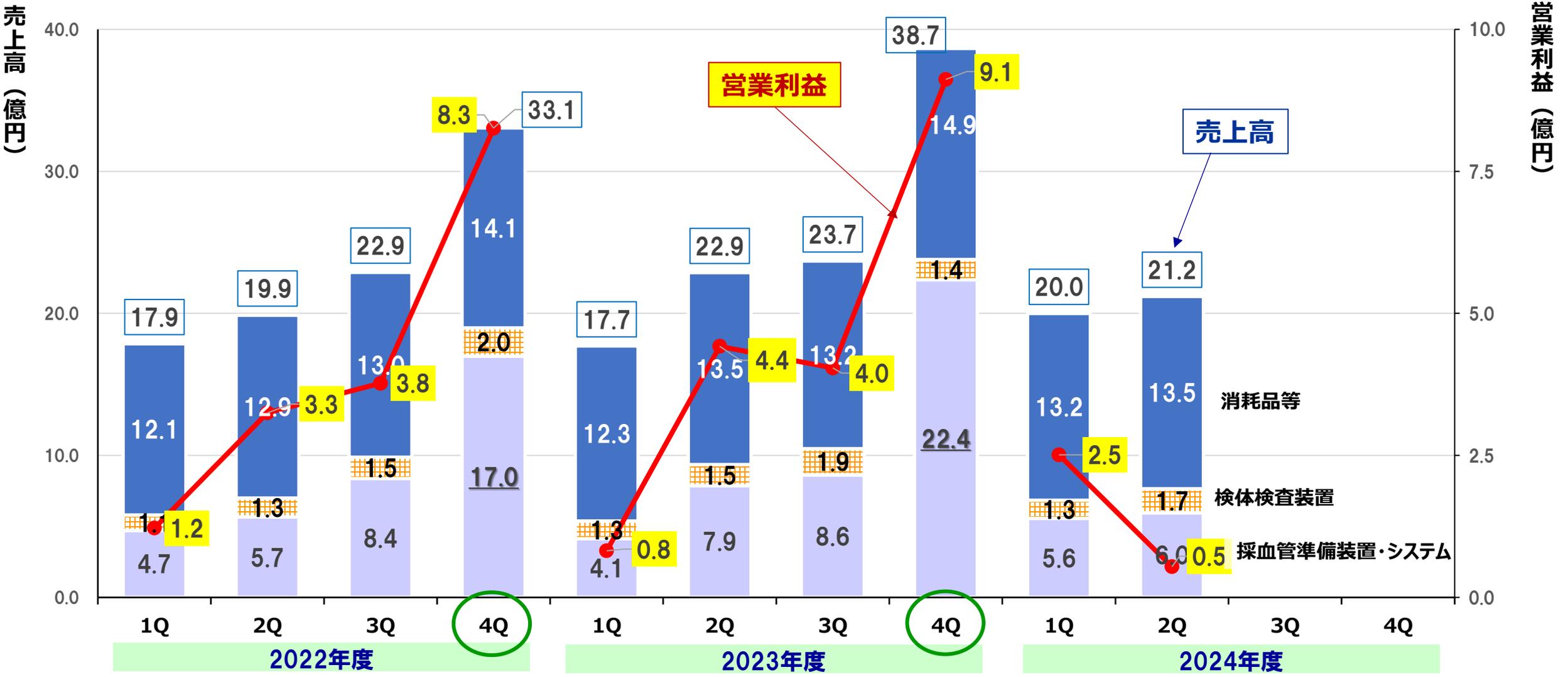
24年2Q累計 売上構成



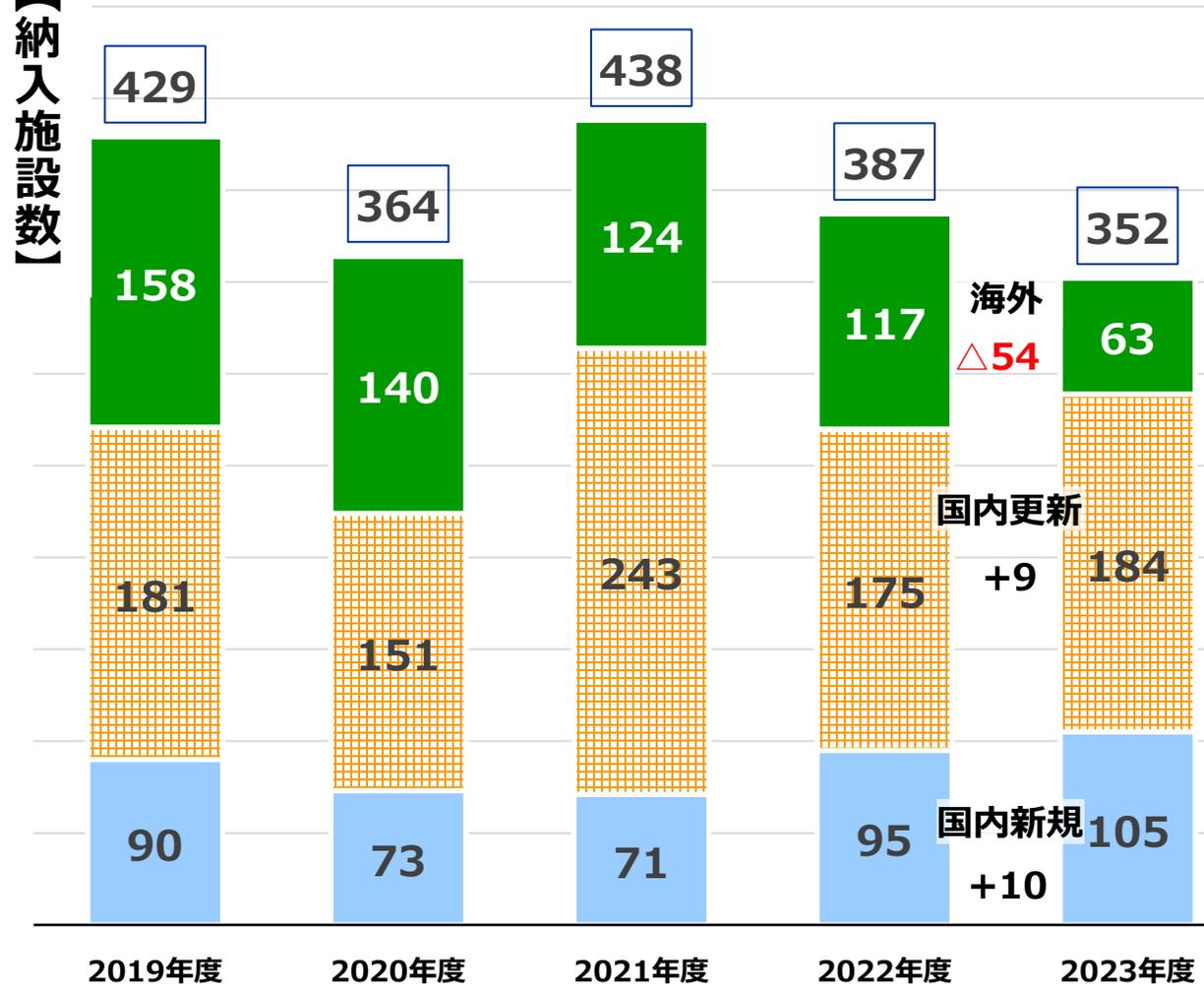
品目区分	23年2Q累計	24年2Q累計	増減額	増減率
採血管準備装置・システム	1,200	1,152	△48	△4.0%
検体検査装置	273	296	23	8.5%
消耗品等	2,584	2,669	85	3.3%
計	4,056	4,116	60	1.5%

品目別売上高、利益 四半期ごとの推移

主力の採血管準備装置・システムの売上が、4Qに集中するため、全社の売上、利益とも4Q偏重



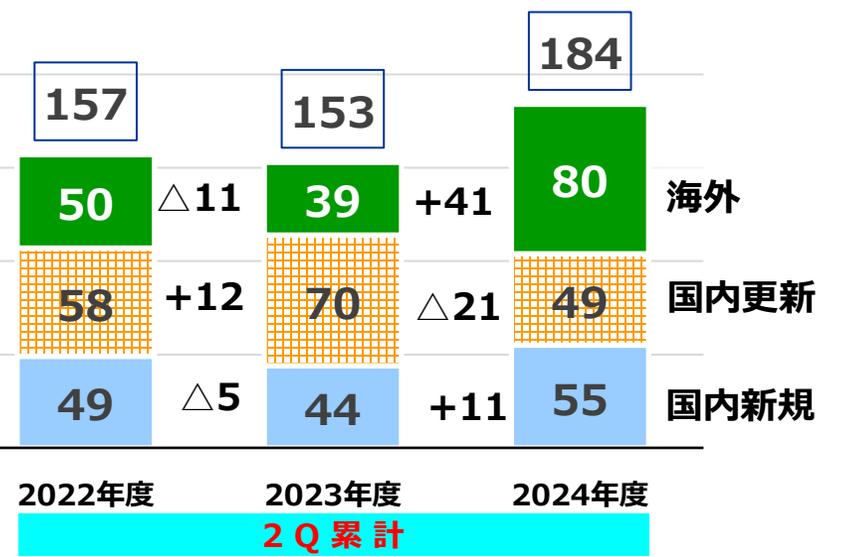
<納入施設数年度推移>

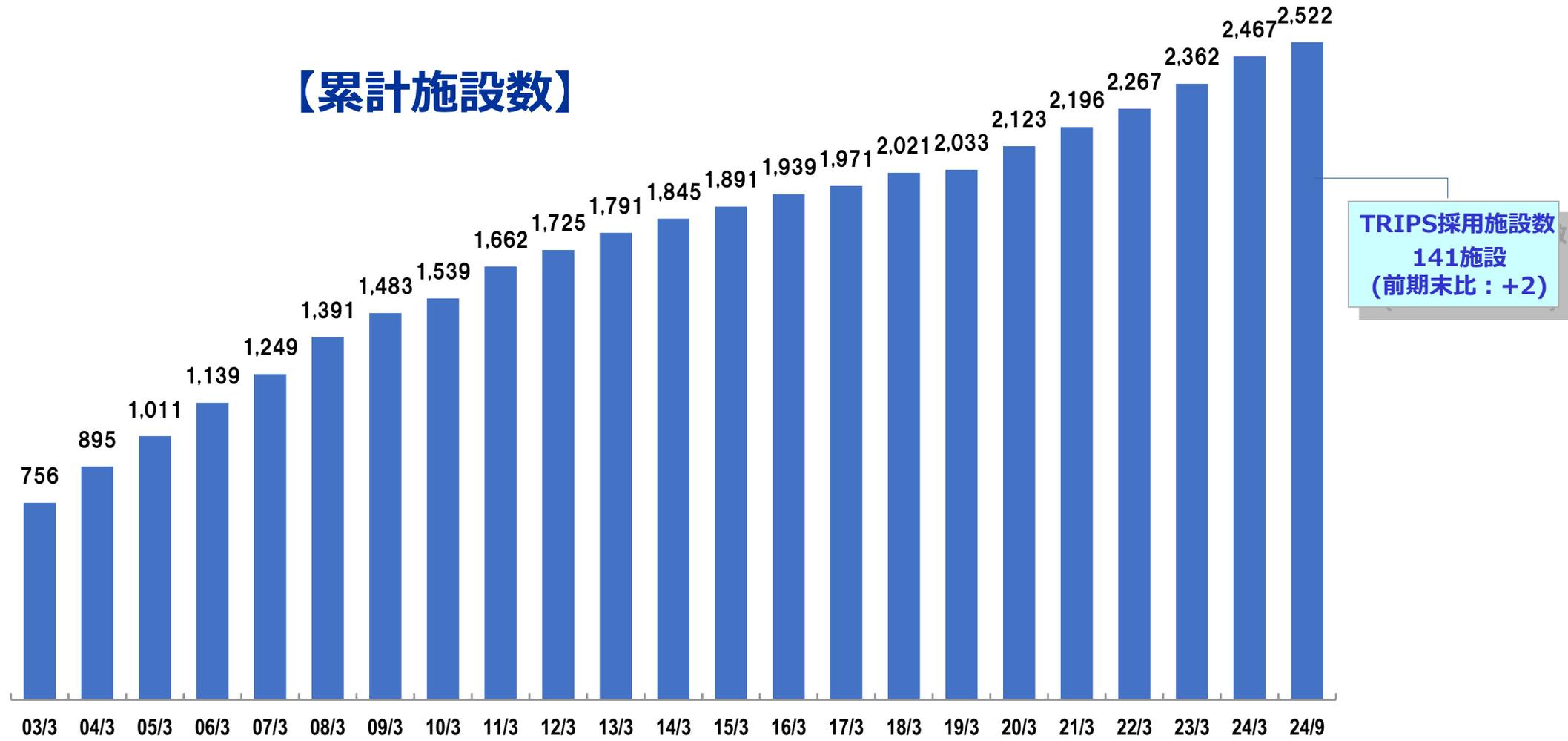


<2Q累計 納入施設数推移>

- ・国内新規：24年度は前年比増（大型機減、小中型機増）
- ・国内更新：24年度は前年比減
- ・海外：22、23年度低調も、24年度は倍増

【納入施設数】







# **3. 2025年3月期 業績見通し**

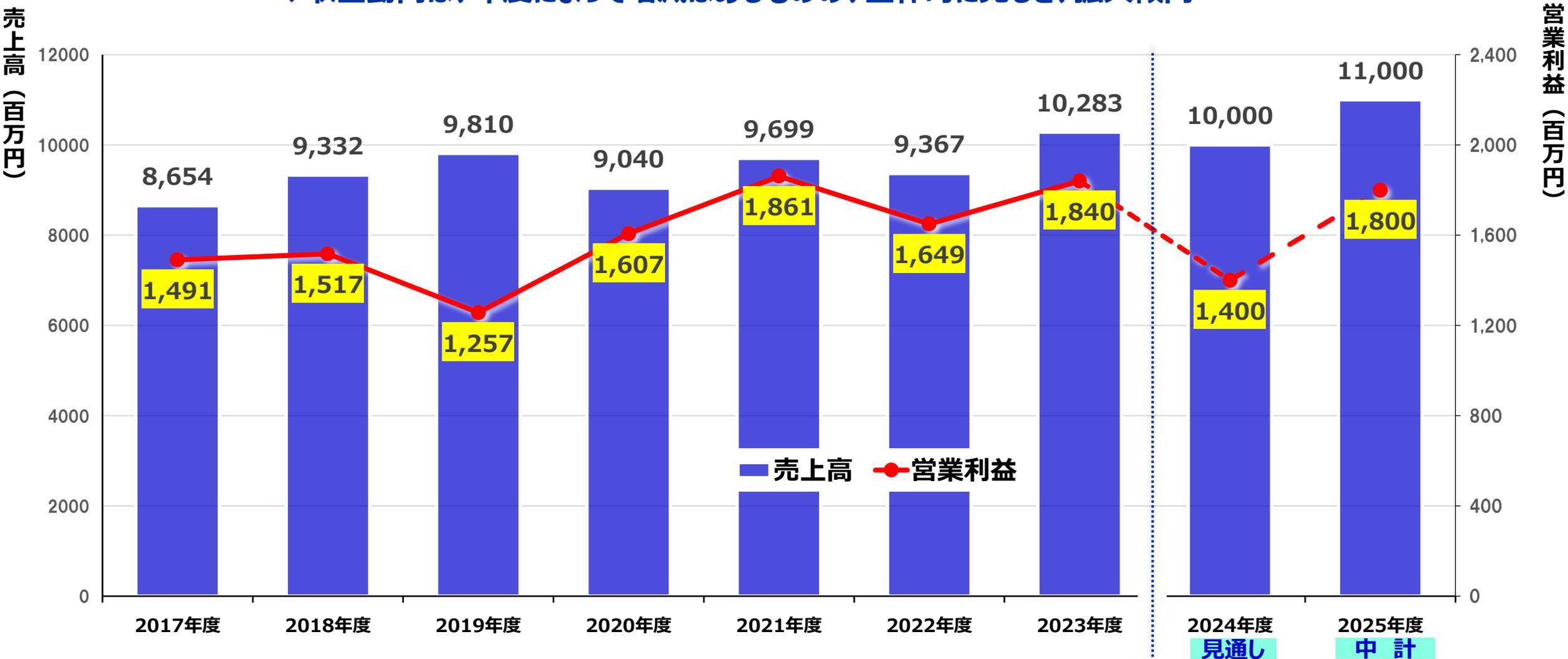
- ◆ 25年3月期の売上高は、当初販売を見込んでいた案件の、24年3月期への前倒しにより、対前年減収
- ◆ 営業利益は、減販及び販管費の増加（研究開発費、労務費等）により、対前年4.4億円減益の見込み

(単位：百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績見通し	前年比	
			増減額	増減率
売上高	10,283	10,000	△283	△2.8%
売上総利益	5,152	4,910	△242	△4.7%
粗利率	50.1%	49.1%	△1.0pts	
販管費	3,312	3,510	198	6.0%
営業利益	1,840	1,400	△440	△23.9%
営業利益率	17.9%	14.0%	△3.9pts	
経常利益	1,870	1,400	△470	△25.1%
当期純利益	1,348	970	△378	△28.0%

# 売上高・営業利益推移

- ◆ 中計25年度は、販管費の増加が見込まれるが、増販により利益の回復を見込む
- ◆ 収益動向は、年度によって増減はあるものの、全体的に見ると、拡大傾向

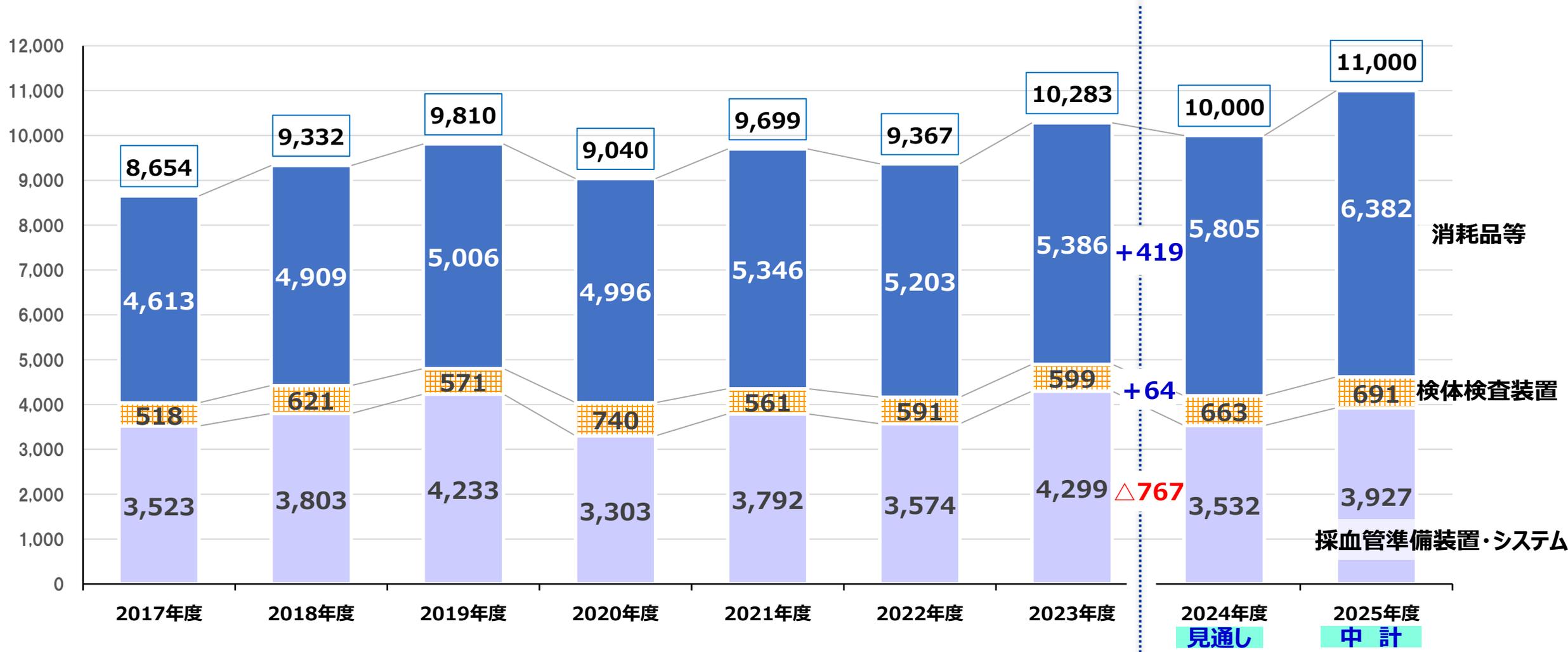


# 品目別売上高推移



◆24年度見通しは、国内の採血管準備装置・システムの売上高が、23年度への案件前倒しにより減少するが、海外向けの採血管準備装置・システム及び検体検査装置の拡販、消耗品の数量増+値上げにより、売上高100億円を確保する。

売上高 (百万円)



# **Techno Medica**

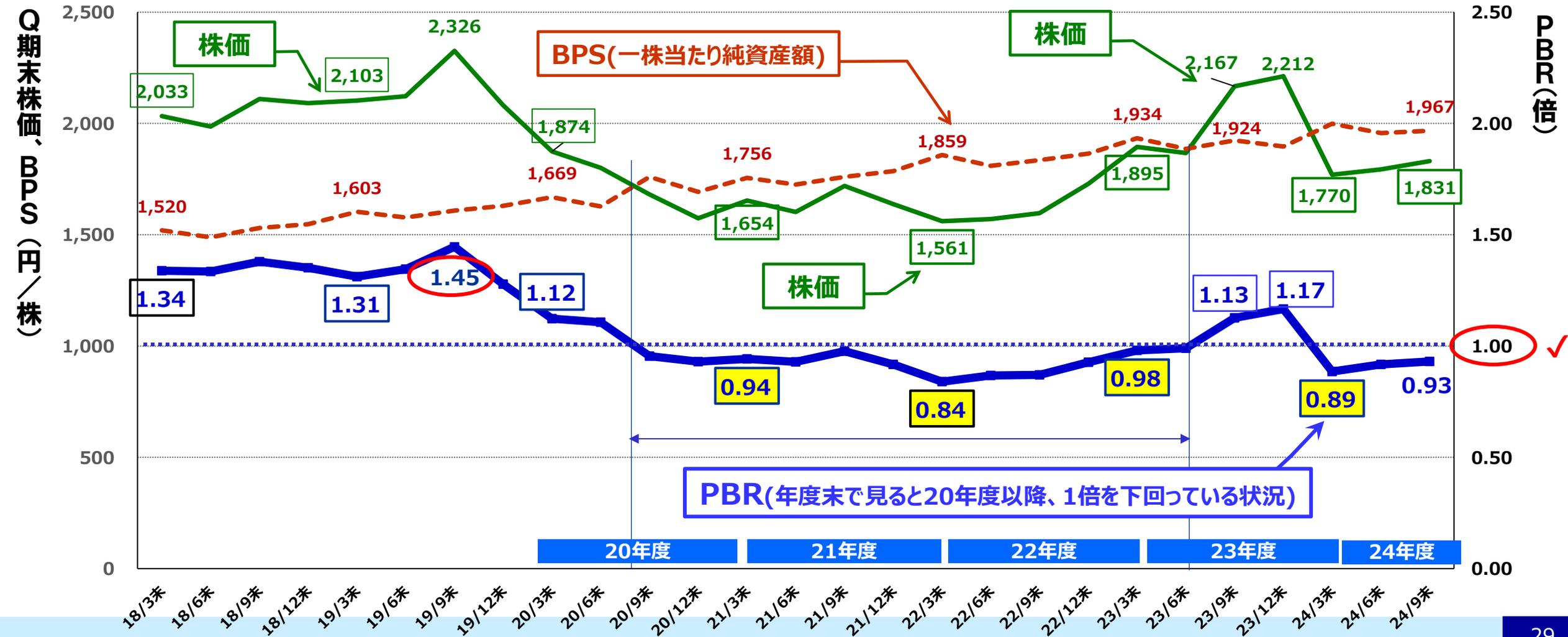
## **4. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応に関して**

**PBR、PER、ROE等のレビュー**

# 1) 当社の四半期毎のPBR(株価純資産倍率) 推移

PBR (株価純資産倍率) = 株価 ÷ BPS (一株当たり純資産額 (自己株式数を除く))

PBRは、19/9末の1.45をピークに、株価の下落、停滞及びBPSの漸増により下落し、20/9末～23/6末まで、1倍割れで推移。その後株価の上昇で、23/12末に1.17まで回復したが、23/4Qで株価が急落し、24/3末～9末は、再び1倍割れの状況。



## 2) 当社のROE(自己資本利益率)とPBRの推移

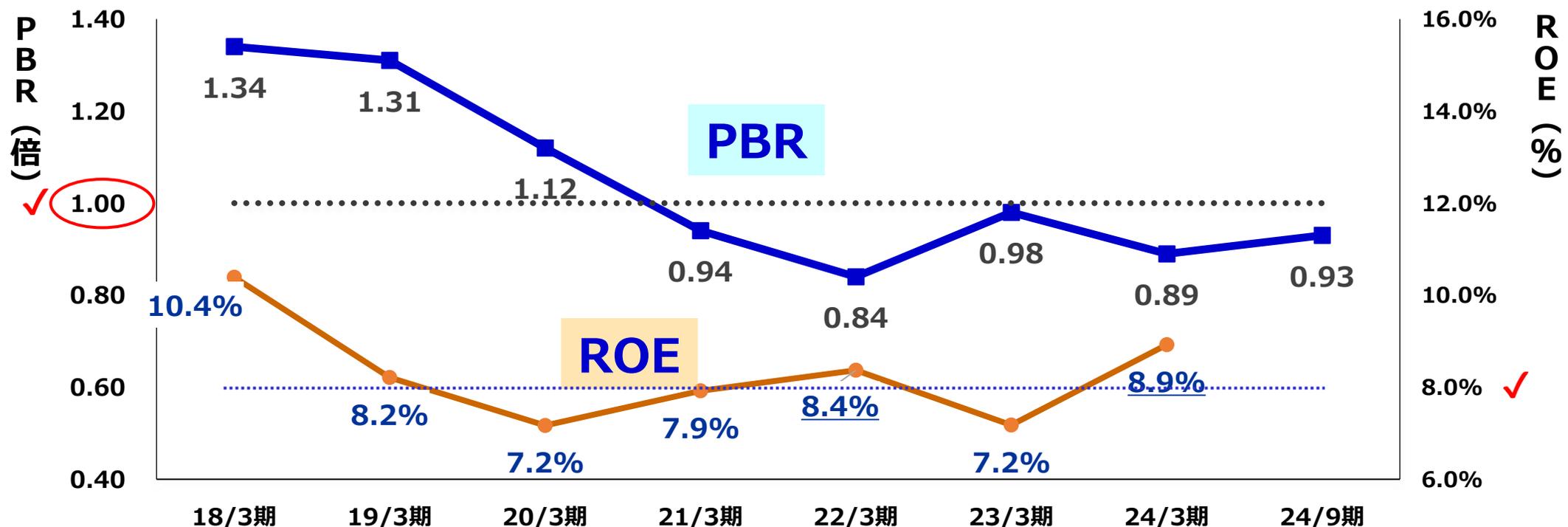
PBR (株価純資産倍率) = 株価 ÷ BPS (一株当たり純資産額 (自己株式数を除く))

ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 ÷ 自己資本 ((前期末+当期末)/2) × 100

◆ ROEは、20/3期まで下落した後反転し、22/3期で8%超まで上昇。23/3期で再び下落も、24/3期は9%近くまで上昇。

一方、PBRは21/3期以降、1倍割れの状況が続いている。

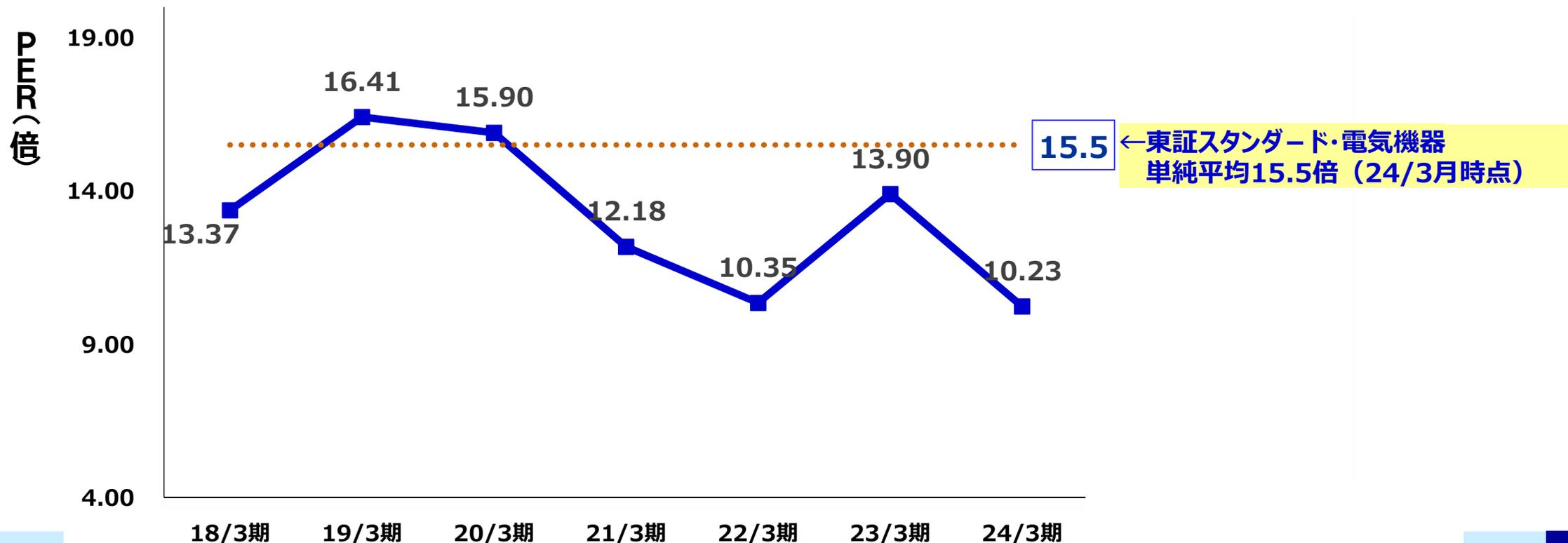
→ ROEが8%以上(22/3期、24/3期)になっても、PBRは上昇せず。(PBRの改善に繋がらず)



### 3) 当社のPER（株価収益率）の推移

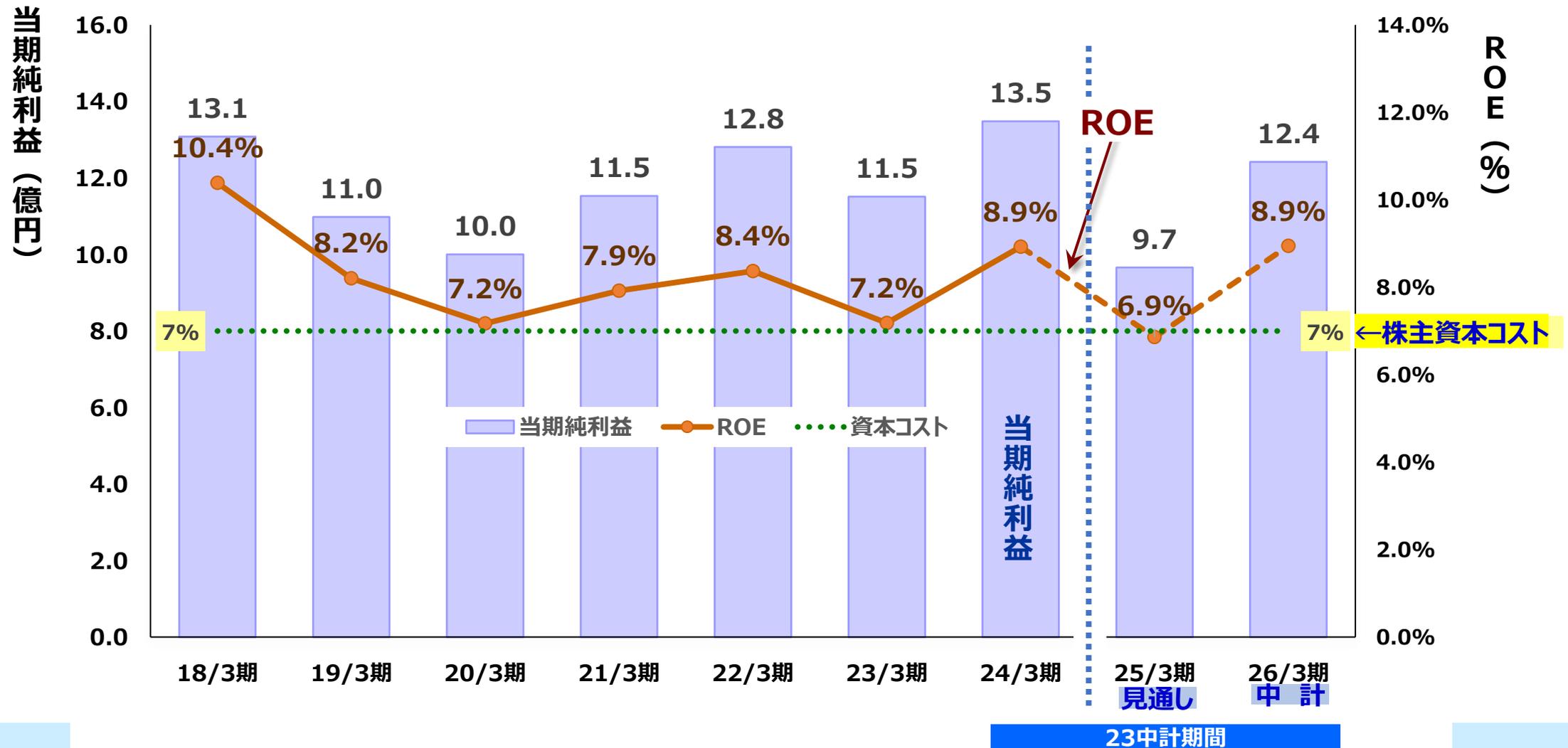
PER（株価収益率）＝株価÷EPS（一株当たり当期純利益金額）  
 株価がEPS（1株当たり純利益）の何倍の価値になっているかを示すもの

- ◆一般的に、PERの数值目安は15倍といわれており、PERが15倍未満であれば株価に対して割安、15倍以上であれば割高と判断される。→高PER企業は、将来の高い成長を市場から期待されている
- ◆当社のPERは下記の通り、以前は15倍を超える時期もあったが、21/3期以降、15倍未満となり、減少傾向にある。→当社は、低PER企業の位置づけとなっている



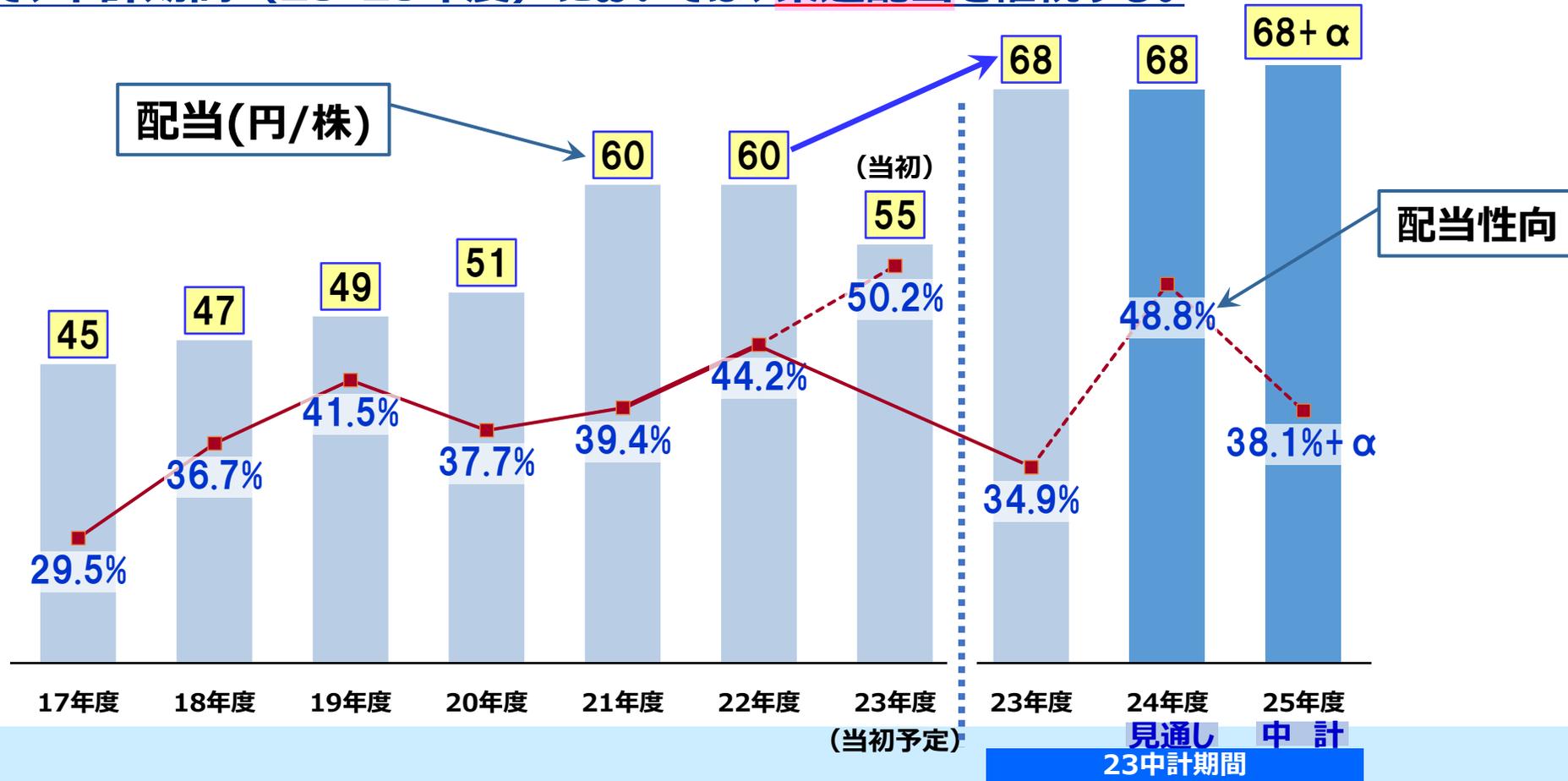
## 5) ROEと資本コスト

◆ 24/3期までの実績ROEは、株主資本コスト7%（株式益利回り（17～23年度（7年間）の単純平均値ベース）を概ね上回っている。25/3期予算は減益で、ROEは7%を割り込むが、26/3期中計では収益回復により、ROEは凡そ9%を見込む。



## 7) 株主還元方針

- ◆ 株主への利益還元を重要施策の1つと位置づけし、経営環境、業績に裏付けされた、成果の配分と内部留保額の決定を行うことを基本方針としている。
- ◆ かかる方針のもと、23年度まで下記の通り配当を実施し、結果として累進配当(配当支払いを増配か維持)を行ってきた。(23年度の配当は、当初は減配を予定していたが、増益となったため、増配を実施。)
- 今後の方針として、中計期間(23-25年度)においては、**累進配当**を継続する。



## 8) 資本収益性、市場評価の改善に向けて

### ◆現状評価

1. 当社のROEは、直近の24/3期は8.9%であったが、25/3期は6.9%を見込んでおり、資本コスト7%と同等の状況にある。
2. PBRは、21/3期以降、0.9倍前後で推移し、1倍割れが続いている。また、PERも21/3期以降、15倍を割り込み減少傾向で、低PER企業の位置づけである。  
よって、投資家の、当社に対する利益成長への期待値は高くないと推測される。
3. 株主還元については、これまで安定配当と自己株式の取得を行ってきた。
  - ① 23年に、37億円の自己株式の取得を実施
  - ② 配当については、資本コストや株価を意識した方策の一つとして、中計期間(23~25年度)での累進配当方針を表明。  
→①、②のいずれも株価の上昇には結び付かず。



上記より、PBR1倍超となるよう株価を上昇させるには、収益拡大に向けた成長戦略(新たな打ち手)の策定・実行が必要

事業提携、M&A、……

## ＜注意事項＞

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。

**ご清聴ありがとうございました**